

第2回知の市場年次大会

知の市場と消費者運動

主婦連合会  
佐野真理子

**【講演要旨】**

主婦連合会とお茶の水女子大学増田研究室との連携は、2005年から始まった。増田優教授が提唱された「化学・生物総合管理の再教育講座」では主婦連独自で消費者・市民運動に関する講座を受け持っていた。再教育講座が08年度で終了し、その発展的継承による「知の市場」が09年度からスタートすると、私たちは「共催機関」として参加することになった。

主婦連は身近な生活現場からの消費者の疑問・提起を重大な消費者問題として捉え、その解決へ向けてアプローチする消費者団体である。「消費者の権利」の実現を目指し、製品や商品の個々の課題や、それに付随した様々な制度的問題の改善を求め、多くの政策提言を含む実践的行動を展開してきた。

このたびの講演では、そのような主婦連が「知の市場」に共催機関として参加し、自主的・主体的でオープンな総合的学習システムの中で、何を学んできたか、どんな影響を受けたかを報告したい。

その上で、「知の市場」と消費者運動との連携と意義について、具体的に取り組んだ「製品の安全性」をテーマにした講座を例にあげ、報告する。消費者運動の一定の推進に伴い消費者団体に求められてくる「理論」と「実践」の相互連関の重要性が、「知の市場」への参加によって一層明確になったこと、それは消費者団体に限らず、一人ひとりの消費者こそが求めていること、そのような実践的学習の機会のある場として、「知の市場」の果たす役割は大きい。

「知の市場」は、その理念・運営方針からみても、今後一層大きくウイングを広げ、各地でたくさんの消費者が多様な学習の場に参加してくることが予想される。自立的で自律的な学習の機会の提供は、消費者問題分野での消費者教育の推進のみならず、複雑・多様化した様々な問題が関連し合っ相次いで発生する現代にあっこそ、重要な位置を占めてくる。

**【報告の主なポイント】**

1. 主婦連合会とは
2. 消費者運動の目的(主婦連合会のエッセンス)
3. 消費者運動推進の課題と展望
4. 主婦連合会と「知の市場」
5. 消費者運動と「知の市場」(現状)
6. 消費者運動と「知の市場」(展望)

以上